

謹賀新年
2026.1月号
vol.165

日南町森林組合広報誌
Green

グリーン・コミュニティ
Community



活動報告

特集記事

話題

日南町の林業を支える人 ほか

お知らせ ほか

P 2~

P 6~

P10

P11

P12



9/4 弓ヶ浜・松林の保全活動



昨年の7月以来となる「弓ヶ浜・白砂青松そだて隊活動」の活動に参加しました。この活動は、雪害を受けた弓ヶ浜の松林を魅力ある白砂青松に再生させようと、平成24年から鳥取県の声がけで始まったもので、現在、40団体が加入、日南町からは、株式会社オロチと当組合が参加しています。

残暑厳しい中、この日の活動には、オロチと当組合から各5名が参加、缶やペットボトルを回収とともに、松を傷つけないよう慎重に下草刈り作業を行いました。



弓ヶ浜半島を魅力ある白砂青松に

9/14 伐木CSプレ大会



森林の整備・保全と新たな林業の担い手の育成を目指し、競技形式での伐木技術を競う「第4回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取」のプレ大会が、鳥取砂丘オアシス広場で開催されました。

この大会は、10月18~19日の本番を想定して実施されたもので、当組合からも5名の職員が審判員として参加し、最後の審判講習を受講しました。世界大会に出場する日本代表選手を選出する来月の公認大会の前哨戦ともいえるもので、本番さながらの緊張感のある中、審判員技術の向上に努めました。



競技種目のひとつ「接地丸太輪切り競技」

9/11 森林・林業政策予算要望



鳥取県森林組合連合会は、石破茂内閣総理大臣、赤沢亮正経済財政政策担当大臣、青木内閣官房副長官、舞立昇治農林水産委員会委員長、藤井一博参議院議員、小坂善太郎林野庁長官らに「令和8年度森林・林業政策の予算に関する要望書」を提出しました。

要旨は、①森林整備の推進、②花粉発生源対策の加速化、③路網整備及び高性能林業機械の導入推進、④森林組合の運営と就労環境等の改善、⑤木材の供給体制強化⑥林業税制の改正と多岐にわたり、それら事業の予算確保を申し入れました。



赤沢亮正国務大臣室にて

10/1 植林地における獣害対策



オーストリアのKwizda Agro社営業部長のトーマス・ロギー氏らが、天然成分由来の動物忌避剤Trico（トリコ）の商品説明のため、来町されました。

特集記事でもお伝えしましたように、本町の森林でも、シカやノウサギによる食害は、増えつつあります。氏らは、日本での製品登録手続きのために来日されたのですが、求めに応じ、本町を訪問してくださいました。今後、忌避剤のドローン散布の実現性などを追究し、生態系のバランスにも配慮した獣害対策のあり方を検討していきます。



植林地を視察されるトーマス氏ら

10/6 大林組の研修施設を見学



林業機械展見学(本号7頁)の帰路、横浜市中区にある(株)大林組の次世代型研修施設 Port Plus(令和4年3月竣工)を見学しました。地上構造部材(柱・梁・床・壁)は、全て木材で、(株)才口チのLVL材も使用されており、鉄骨造、RC造と同等の強度も確保した高さ44m(11階建て)の日本初の高層純木造耐火建築物です。

都市部の狭小敷地でありながら、圧倒的な存在感を放っており、中に入ると、吹き抜けのテラスから光が差し込み、自然を感じることができる心地よい研修スペースが創出されました。



圧倒的な存在感を放つPort Plus

10/21 全国森林組合大会



全国森林組合連合会主催による「第30回JForest全国森林組合大会」が、開催されました。今年が、国際連合が定める「国際協同組合年(IYC2025)」であることから記念大会に位置づけ、「IYC2025を契機とした協同組合の連携と発展」という大会テーマの下、循環型林業の推進や組織連携のあり方を追求する大会となりました。

5年ごとの開催の本大会ですが、前大会は、コロナ禍の影響で、2021年に開催されました。今大会から従来の5年周期での開催に戻ります。



中崎和久氏(岩手)による代表理事長挨拶

10/7 労働環境改善に向けて



ASPEN2は、スウェーデンで37年前に開発された2サイクルエンジン用の混合燃料で、通常のガソリンが100種類以上の物質を含むのに対し、ASPEN2の燃料成分はわずか10種類で、排ガス中に含まれる有害物質を通常のガソリンとの比較で、93%低減しています。

このたび、森林組合と林業アカデミー、燃料商社の(株)橋本屋(東京都)の3社で「ASPENの普及を通じた林業の労働環境の改善に関する連携協定」を締結、林業従事者の健康と安全を守り、労働環境の改善を図ります。



10/25 NXグループ共生の森活動



NIPPON EXPRESSホールディングス(株)グループの社員とご家族、総勢36名のみなさんが神戸上町内の「NXグループの森」において、今年2回目(通算27回目、内中止3回)の森林保全活動を実施されました。

この日は、小雨が降りしきる中の活動となりましたが、クヌギ、モミジ、アオダモの苗木の植樹と獣害防止用保護カバーを設置していただきました。わたしたちは、こうした企業の環境貢献活動を県・町とともにサポートし、町の活性化に貢献していきます。



10/27～31 林野庁職員が実務研修



10月27日(月)から31日(金)まで、林野庁林政課の職員1名が、当組合での林業実務研修に臨みました。

座学は半日のみで、実務の視察を中心に町内を巡っていただきました。研修終了後、「町内で川上から川下までの循環型林業を確立し、森林所有者に還元ができる仕組みづくりなど、職員のみなさんの丁寧なご説明と実践的なアドバイスにより、理解を深めることができました。今後の業務において、今回の経験を活かしていきます」と所感を述べておられました。



11/12～28 人工光苗木の生育状況調査



苗木の安定生産技術の開発を目的に、樹木育苗センター内に人工光苗木生産パイロットプラントを設置された㈱大林組が、人工光と自然光で育苗した苗木の植林後の生育状況調査を町内の試験区で実施されました。

今回の調査は、同時期に植栽した通常栽培の苗木と人工光と自然光で育苗した苗木の樹高、幹廻りの計測でした。大林組では、これまでに実施された活着状況等のデータ、今回の生育状況調査の結果などを活用し、「カラマツの成長予測モデル」を作成される予定と聞いています。



(株)神戸上農林の農林業経営が計画的で、かつその生産活動も秀逸であると評され、このたび、農林水産大臣賞を受賞されました。

神戸上農林は、2011(平成23)年1月に現代表の内田敦郎さんが設立、搬出間伐による素材生産から林地残材の持ち出しによる燃料用チップの生産、また、地域の農業の担い手として、経営耕地規模の拡大と農地の集約化など、農林業に対する経営改善意欲が高いことが、農林水産大臣賞としてふさわしいと評価されての受賞となりました。



このたび、永年にわたる森林の適正な管理と林業の健全な発展に寄与していることが認められ、(株)グリーン・シャインが林野庁長官賞受賞の栄誉に浴されました。この日、ふるさと日南邑には、歴代役職員のみなさまのほか、中村町長、内田県議、鳥取県森林・林業振興局の濱江謙二局長や町内林業関係者らが一堂に会し、受賞記念祝賀会が開催されました。

同社の平田社長は「行政や森林組合、町内林業関係者らの支援により、ここまで成長することができた」とその喜びを語っておられました。



11/21 小丸太組合研修会



町内の若手林業従事者からなる小丸太組合が、山本美明氏（上石見）を講師に迎え、「林業機械のメンテナンス」を内容とする研修会を開催されました。

この日の研修参加者は21名で、労働安全規則に基づく林業機械の制動装置及び操作装置の機能、荷役装置及び油圧装置の機能など、作業開始前の点検方法を学びました。林業機械の作業前点検・メンテナンスが、労働災害のリスク回避と修繕費の抑制にもつながっていくということを改めて認識することができた研修会でした。



11/25 ラジコン式作業車実演会



鳥取県林業担い手育成財団主催によるラジコン式伐倒作業車シン・ラプトルの研修実演会が、石見地内の山林で開催され、関係者31名が参加しました。

シン・ラプトルは、松本システムエンジニアリング株（福岡県篠栗町）が独自開発したAI搭載のラジコン式伐倒作業車です。下り傾斜45度、上り傾斜35度までの立木に対応でき、参加者からは、「作業の安全性の向上に期待できそう」といった声がある一方で、「立体視映像による伐倒作業に馴れるのに時間がかかるのでは…」といった声も聞かれました。



ラジコン式作業車シン・ラプトル

11/21 J-クレジット調印式



(有)大生建設、(有)近藤板金工作所、(株)マシン・メンテナンス（日野町）の3社に、組合保有のJ-クレジットを、各々20t、10t、5tをご購入いただきました。

3社は、町のJ-クレジットも購入されており、町と合同で開催した売買契約締結式には、大生建設の川田治代表取締役、近藤板金の近藤英義代表取締役、マシン・メンテナンスの田邊秀幸代表取締役、売買の仲介者の鳥取銀行根雨支店の岩本桂支店長にご出席いただきました。

なお、令和7年のJ-クレジット販売状況は、12頁に掲載しています。



役場庁舎での売買契約締結式

11/26 日南小2年生生活科見学



日南小学校2年生のみなさんが、生活科の学習の一環で、当組合を訪問してくださいました。

最初に、森林組合の役割、町の林業について説明した後、子どもたちからは「山で働くことで、大変なことはありますか?」「どのようにして木を伐っているのですか?」といった質問がありました。今、わたしたちが植えている木を伐って、使うのは、この日、森林組合を訪ねてくれた子どもたちです。町の大好きな森林資源を子どもたちが生きる未来に届けていきたいと思います。



「木のいい匂い…」と言ってくれた子どもたち

森林の恵みを次世代へ繋いでいくために



ニホンジカ等による森林被害とその対策

1. はじめに

前々号(vol.163)でもお伝えしましたように、町内でも、ニホンジカ（以下、シカという。）やノウサギによる「枝かじり」や「剥皮」といった食害が顕在化しており、その対策は、喫緊の課題です。町内におけるシカの個体数増加の要因としては、元々繁殖力が高い動物であることに加え、広域的に移動してきたシカにとって、町内の広い山林と利用されないまま放置された里地里山が生息に適した環境であったこと、餌となる植生量が豊富なこと、積雪量が減少し、シカの死亡率が低下したこと、狩猟者が減少し、捕獲数が減少したことなどが考えられます。

2. シカによる森林生態系への影響

シカの環境適応能力は驚異的で、亜寒帯の北海道から亜熱帯の島まで、それぞれの地域の季節的・空間的な変化に応じて生息しています。そんなシカにとって、日当たりもよく、草も生える皆伐再造林地は、絶好の生息環境といえます。

シカは、新植したカラマツ、スギ、ヒノキといった苗木だけでなく、シカが好まないアセビやミツマタ、マツカゼソウなどを除くほとんどの植物を食べつくしてしまいます。森林内には、シカが好まない植物だけが残り、偏った植生に変わってしまいます（「生物多様性の損失」）。さらに、餌がなくなると、好まない植物や落ち葉まで食べ、林道や林地は裸地状態（「下層植生の衰退」）となり、降った雨が表面を流れ、土壤の流出が発生するなど、地崩れの可能性も高まります。



町内での個体数が増加するニホンジカ
(写真提供：日野郡鳥獣対策協議会)

3. 町内における被害の状況

町内では、こうしたシカの食害だけでなく、ノウサギによる食害も増えており、再造林エリアのプロット（一定の範囲）調査では、**新植した施業地の一部でノウサギによる食害を確認**しています。再造林地での被害状況の全容は確認できていませんが、今後、下刈りの実施に併せ、再造林地におけるシカやノウサギによる食害の初期診断を行う予定です。

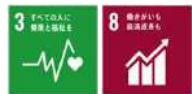
4. 植栽木の獣害対策

こうした中、着眼したのが、オーストリアのKwizda Agro社のTrico（トリコ）という天然成分由来の忌避剤（シカなどが嫌がる成分・匂いを発する薬剤）です。獣害対策としては、増え過ぎたシカやノウサギを捕獲する①個体数調整、防護柵・苗木保護カバーの設置、テープ巻き（シカによる樹皮剥ぎ対策）、忌避剤散布などの②被害の防除、野生鳥獣の生息環境に手を加え、鳥獣が出没しにくい緩衝帯を設けるといった③生息環境管理、この3つを総合的に推進することが必要とされています。

ドローンによる忌避剤散布の試験を行った岐阜県森林研究所は、ドローンを用いて、労働強度の高い忌避剤散布を行うことの有効性は認めたうえで、手散布より精度が低く、時間を要することを課題としてあげています。今後、Tricoの国内販売開始の時期等を確認するとともに、忌避剤のドローン散布の実現性などを追究し、生態系のバランスにも配慮しながら、将来を見据えた獣害対策を構築していきます。

《参考資料》 「森林における鳥獣被害対策のためのガイド」(林野庁森林保護対策室)

林業現場の安全を考える



林業における労働災害の現状

1. はじめに

林業とは、木を植えて、森を育て、成長した樹木を伐倒し、玉切りし、そして、運搬する…これを繰り返していく職業です。造林班の現場は、足場の悪さといった林業ならでは問題や、チェーンソーや刈払い機など、鋭利で高速回転する機械を日常的に使用しなければならない厳しい作業環境にあります。

そして、林業機械を操作しながら、立木を伐採し、丸太に加工し、森林から林道まで運び出す作業を行う林産班の現場も、足場の悪い中で、数百キロの重量物を扱うことになりますから、常に、危険と隣り合わせの作業環境となります。そのため、林業の現場では、労働災害の発生する割合が、他産業に比べて、非常に高くなっています。

2. 林業における労働災害の現状

林業の現場における労働災害の発生は、安全装備の導入などの災害防止活動の取組みや作業工程の機械化、技術向上などの取組みなどによって減少傾向にはありますが、未だに事故を無くすまでには至っていません。

平成29年から令和元年まで、3年間の林業死亡事故の発生状況を被災者の年齢と経験年数でクロス集計したものが右表です。経験年数4年以内の者が21.9%、経験年数5~9年の者が18.3%と経験年数の浅い従事者の災害が多く発生しており、年齢に関わらず、経験年数の浅い従事者が多く被災しているということがわかります。

3. 当組合の作業種別労働災害の発生状況と対策

平成26年から令和6年まで、10年間で15件の労働災害が発生、事故の型別では、チェーンソーによる伐木作業中の事故が33%で最も多く、傷病別には、打撲・捻挫(5人)、裂傷(5人)、その他(5人)となっており、時間帯では、10~11時台に多く発生しています。

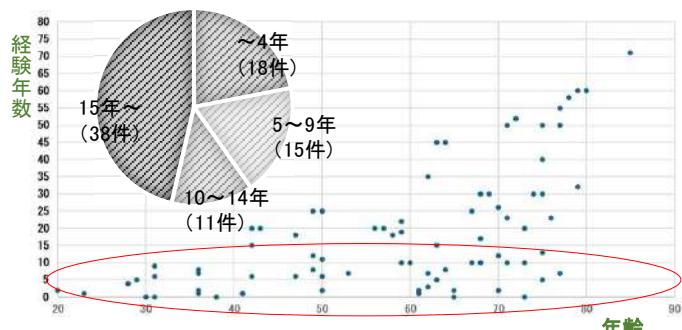
今後、伐木作業等における労働災害を防止するため、伐木作業等の安全対策及びかかり木処理時の禁止事項の徹底を図るとともに、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」に基づく施設を徹底し、労働災害の撲滅を目指します。

職場内の「安全衛生大会」では、当組合で発生した労働災害を振り返るとともに、安全意識の向上と、林業災害の防止に向けた取組みを推進していくこと確認しました。

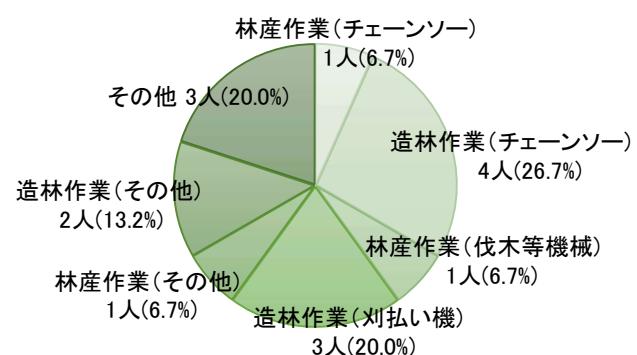
2023年度の死傷者※年千人率を比べると…



被災者年齢×経験年数別の死亡事故発生状況



当組合の作業種別労働災害の発生状況



森林環境の保全・保育作業・間伐作業・林業活性化事業のために



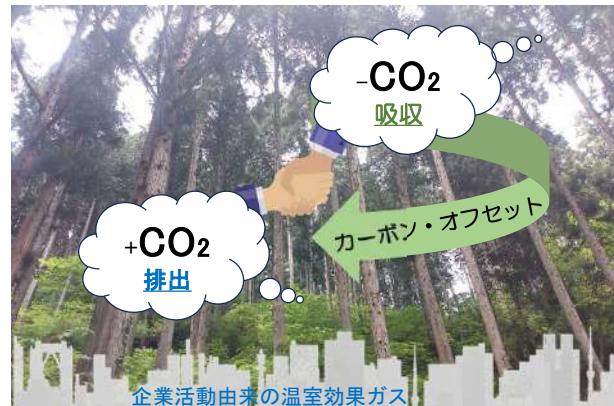
カーボン・オフセットによる森林整備

1. はじめに

FSC® 森林認証とは、「責任ある森林管理がされているかどうかを第三者機関が全世界統一の基準」で審査、認証する制度で、当組合は、2010(平成22)年3月、鳥取県では初めて、国内では31番目に認証(認証番号 SA-FM/COC-002427)されました。取得時の面積は、わずか2,615haほどでしたが、その後、2013(平成25)年7月には、19,529haまで認証林を拡大することができました。

2. J-クレジット(旧J-ver制度)の取得

FSC® 森林認証の基本理念に基づき、環境に配慮した適切な森林管理と環境保全及び林業振興に資することを目的に、森林所有者のみなさんの同意も得て、2013(平成25)年3月、「鳥取県日南町森林組合による間伐促進J-verプロジェクト～未来につなぐ森林共生社会をめざして～」を登録、同年9月には、2008(平成20)年度から2012(平成24)年度の5年間に間伐した483haの森林の二酸化炭素(CO₂)吸収量9,826tをJ-verクレジット(現J-クレジット)として取得することができました。



3. J-クレジット(旧J-ver制度)の販売状況

2014(平成26)年から販売を開始し、これまでの販売量は、2025(令和7)年3月末現在、642t-CO₂で、19社3団体に、延べ64回購入いただきました。

これ以外に、日南町へ2022(令和4)年度に2,000t、2024(令和6)年度に3,000tを移転販売しており、残クレジットは、4,184tとなっています。

組合では、これら販売収益を、所管森林の管理と整備に活用するとともに、環境保全の財源として有効利用し、循環型林業の構築に向けた取組みを推進しています。

4. ボランタリークレジットの取得に向けて

わたしたちが、新たに取得を検討しているボランタリークレジットとは、世界中の民間企業やNGO団体などが主導・運営するカーボン・クレジット制度で、ここが、政府主導で運営されているJ-クレジットとの大きな相違点です。温室効果ガス(GHG)排出量削減を目指す企業が

“自主的な”カーボン・オフセット活動に取り組む際、民間主導で、国による政策的な制約がなく使い勝手のよいボランタリークレジットの活用はとても有効です。今後、J-クレジットを始めとするカーボンクレジットの需給ギャップが逼迫していくのは必至の状況であり、このボランタリークレジットに注目が集まっています。

J-クレジットの販売量



5. カーボンクレジットポテンシャル検証

今年3月、株式会社日立システムズに「CO₂吸収量及びカーボンクレジット創出ポтенシャル評価実証実験」を委託、同社は、当組合管轄の一部エリアの森林を対象に、衛星データ活用によるCO₂吸収量を測定し、その測定結果を用いたカーボンクレジット創出量を算出するという実証実験を行いました。

その最終報告は、仮に、施業ペースを10~80ha/年に段階的に拡張し、スギ林 1,200haの針広混交林化（スギ林への広葉樹の誘導）を図っていった場合、40年間で10.9万tのクレジットを創出できるというものでした。

本町の森林の多くは伐期を迎えており、当組合では、間伐施業を続けながら、みなさんの要望に応じ、適期に皆伐・再造林を行うという施業を基本方針としています。ただ、平成28年6月から平成29年3月にかけて実施した「山林意向調査」では、山林の所有について、後継者次第という方が226人、譲渡したいという方が134人もおられ、この方々は、皆伐再造林という施業には、賛同いただけないのではないかと推測しています。また、作業道が敷設しにくいといった地形的な観点から、皆伐再造林が困難な山林も存在しているのが実情です。

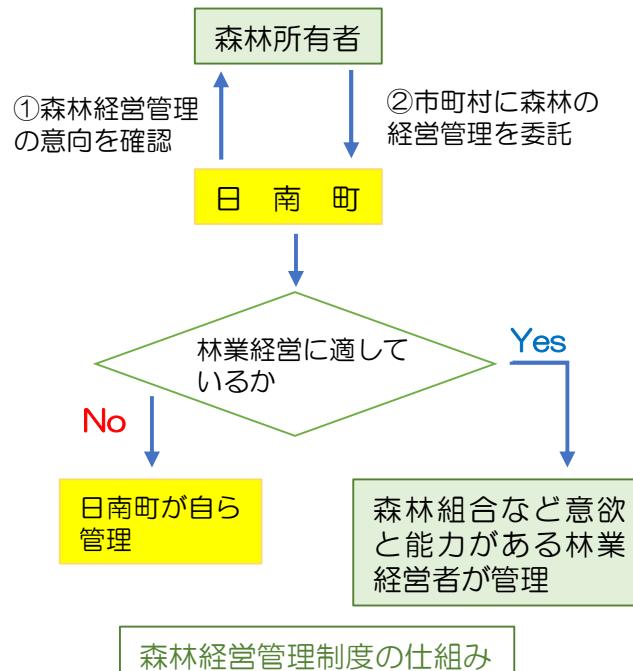
6. 今後の事業の進め方

日南町では、国が平成30年に制定した「森林經營管理法」に基づき、森林經營計画を策定しておられない森林所有者のみなさんを対象に、所有山林の今後の管理方法を確認するための「所有山林に関する意向調査」を実施しておられます。

これまでに、多里、阿毘縁、石見、大宮、山上での調査が終わり、回答された7割近くのみなさんが「町や民間に管理を委託したい・検討してみたい」と回答しておられるといっています。

末了の日野上、福栄の調査結果を待たなければなりませんが、今後、「所有山林の管理を森林組合に任せたい」と考えておられる方を確認させていただき、当組合が新たに管理することになる山林を中心に、ボランタリークレジット取得の可否を探ります。

わが国は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指しており、カーボン・クレジットは、その排出量削減方法の一つとして作られました。売る側も買う側も、クレジットの創出や購入で「環境に配慮した取り組みを行っている企業である」ことをアピールすることができます。わたしたちは、新たなクレジット創出によって得ることができる資金を有効活用し、「伐って、使って、植えて、育てる」という町の森林資源の持続的なサイクルを構築していきます。



第4回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取



第4回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取が、10月18日(土)～19日(日)、鳥取砂丘オアシス広場(鳥取市福部町)で開催されました。この大会は、森林の整備・保全を推進するため、大会を通じて安全で正確な伐木技術を習得し、新たな林業の担い手育成を目指すとともに、競技形式でのスポーツ感あふれる高度な技を競い、林業の新しい魅力の発信、社会的認知度の向上、新規林業就業者数の拡大等を図ることを目的としています。

また、今大会は、令和8年3月開催の第36回世界伐木チャンピオンシップ(於: スロベニア)に出場する日本代表選手選考会を兼ねており、当組合の職員6名も審判員・スタッフとして大会に臨みました。



出場者全員での記念撮影

●競技種目

①伐倒競技



②丸太合せ輪切り



③ソーチェン脱着



④枝払い



⑤接地丸太切り



町内から唯一、プロフェッショナルクラス(60名)に出場した内田青空(そら)選手(株)神戸上農林)は、惜しくも、決勝進出とはなりませんでした。

各クラスの上位入賞者は次のとおりです。

●プロフェッショナルクラス ※上位3名が世界大会へ

- 優勝 今井 陽樹(群馬県) 1,654点
- 第2位 高山 亮介(長野県) 1,629点
- 第3位 松村 祐(長野県) 1,566点



左から高山選手、武藤選手、今井選手、山岡選手(以上が世界大会へ)、松村選手

●ジュニアクラス ※上位1名が世界大会へ

- 優勝 山岡 空(長野県) 1,613点
- 第2位 小原 遼太(岩手県) 1,127点

●レディースクラス ※上位1名が世界大会へ

- 優勝 武藤 唯(福島県) 1,508点
- 第2位 水本美佳子(奈良県) 1,443点

日南町の林業を支える人 interview



株式会社オロチ
とみた りゅうじ
富田 竜二さん

Q1. オロチに入社されて何年になりますか？

2年目になります。

Q2. この仕事に入ったきっかけは？

LVLがどのようにして製造されているのか興味がわき、入社を希望しました。

Q3. 仕事の内容は？

ドライヤー（乾燥機）のオペレーターです。

Q4. 難しいと思うところは？

単板を一枚一枚目視確認しなければならないので、集中力を絶やすことができません。

Q5. 今の仕事についてよかったですと思うところは？

LVLを製造するのにさまざまな工程があることを知りました。

Q6. 今後の目標は？

担当している今の仕事を早く覚えて、違うポジションでも働いてみたいです。

Q7. 熱中していること、または趣味は？

キャンプとドッジボールです。

表紙写真の富田さんです。取材へのご協力、ありがとうございました。

理事会開催報告（協議事項等）

令和7年度第4回理事会 (令和7年9月30日)

《協議事項》

- ・小水力発電事業の方針について
- ・自然環境に配慮した油脂製品の使用について
- ・ボランタリークレジットの創出量の分析について
- ・固定資産の取得について

- ・常例検査指摘事項の改善状況について
- ・日南町森林組合育児・介護休暇等に関する規程の一部改正について
- ・その他

職員研修「みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会」



第48回全国育樹祭の記念行事として、10月5日(日)～6日(月)の2日間、宮城県石巻市で開催された「みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会」（主催：宮城県・一般社団法人林業機械化法人）を見学しました。

この展示実演会は、ハーベスター、フォワーダ等の高性能林業機械をはじめ、チェーンソー、刈払機等の小型林業機械、木材破碎機等の森林バイオマスの有効利用のための機械、環境保全や安全に資する機械、機具、機材等を展示・実演し、その性能を紹介するとともに、森林・林業・環境機械の普及とその安全使用の促進を図ることを目的としています。会場内は、林業の現場で働く最新の高性能林業機械などの展示・実演が行われるほか、キッチンカーなどによる飲食・物販のブースもあり、林業関係者だけに限らず、多くの来場者で賑わっていました。



ラジコンによるフォワーダの実演

J-クレジット販売契約



これらJ-クレジット売上金は、SDGsの理念で、組合の基本方針でもある循環の森林づくりの経費の一部に充当いたします。

ご購入者のみなさまの変わらぬご支援に心よりお礼申しあげます。

契約日	ご購入者(敬称略)	ご購入量	ご仲介者	摘要
R7. 5.27	(有)前田石油店	5t		8年連続
R7. 9. 2	(有)福岡組	10t	合銀生山支店	5年連続
R7.11.21	(有)大生建設	20t	鳥銀根雨支店	8年連続
	(有)近藤板金工作所	10t		8年連続
	(株)マシン・メンテナンス	5t		6年連続
R7.12. 1	長尾石油店	3t	合銀生山支店	4年連続

組合員名義変更などについて

亡くなられた組合員の方の名義の変更がまだの方は、森林組合までご連絡ください。届出用紙をお送りします。引越しをされてご住所が変更になられた方もご連絡いただきますようお願いいたします。

担当 総務課

年末年始の休業について

12月27日(土)～1月4日(日)は休業日、
1月5日(月)が仕事始めとなります。

組合員数 (令和7年11月末現在)

正組合員数	1,469名
准組合員数	6名

ご相談窓口

TEL 0120-988-928 (フリーダイヤル)
受付時間/9:00～17:00(土日・祝日除く)

山についての相談はこちらにお電話を！

ホームページ



Facebook



Instagram



補助金の精算時期と手数料について

補助金の精算時期は、おおよそ次のとおりです。ただし、作業の終了時期や県の検査、県・国の予算執行状況により、変更となる場合があります。

- 間伐補助金…5月末、1月末
- 持出補助金…5月末、8月末、11月末、2月末

ご不明な点などございましたら、森林管理課までお問い合わせください。



編集後記

林野庁は9月23日、大阪・関西万博で「木づかいシンポジウム2025 in 万博」を開催、木造建築の可能性について議論が交わされた。

今回の万博では、各パビリオンに多くの木材が使用され、大屋根リングに関しては、「保存」をめぐる議論が持ち上がっている。一年前、大屋根リングを「世界一高い日傘」と皮肉った一部メディアのみなさんは、この現状をどのように評しておられるのだろうか。

発行元

日南町森林組合

〒689-5211

鳥取県日野郡日南町生山423-2

TEL 0859-82-0130 FAX 0859-82-0321

E-mail info@n-forest.jp.net

HP http://n-forest.jp.net